

釧路湿原自然再生大会

日時／6月20(金)～22日(日) 会場／釧路市観光国際交流センター

ラムサール条約釧路会議10周年を記念して、6月22日、地元関係者や全国から幅広い分野の専門家を招き、釧路湿原における自然再生事業の今後の進め方や目指すべき方向性について議論するシンポジウムを開催します。

また、地域の方々や市民団体が主体となる各種催しも開催し、釧路湿原の保全と再生に向けた普及啓発を行います。

自然再生大会は、市民団体や関係機関による実行委員会(辻井達一委員長)が主催するもので、開催期間は6月20日から22日の3日間です。釧路市観光国際交流センターをメイン会場にシンポジウムを開催する他、自然再生事業地の見学会、地元ベンチャー企業と標茶高校による水質浄化実験の公開、外来種であるウチダザリガニ釣りや、コウモリ観察、絶滅のおそれのあるイトウの放流など様々な企画が行われます。

22日のファイナルイベントでは、北海道大学大学院中村太士教授による基調講演や日本科学未来館館長で宇宙飛行士の毛利衛さんなどを招いて、パネルディスカッションが行われます。



6/22 SUN **ファイナルイベント**
シンポジウム 10:00～16:00 **参加無料**

基調講演「釧路湿原の現状と流域保全・再生への提言」

北海道大学大学院教授 中村 太士氏

- 大会参加企画団体からの報告
- パネルディスカッション
- コーディネーター
自然再生大会実行委員長・北海道環境財団理事長
辻井 達一氏
- パネリスト
釧路公立大学教授 小磯 修二氏

- サントリー不易流行研究所部長 佐藤 友美子氏
- 標茶町役場 佐藤 吉彦氏
- 釧路国際ウェットランドセンター主幹 新庄 久志氏
- NPO法人トラストサルン釧路 杉沢 拓男氏
- 北海道大学大学院教授 中村 太士氏
- 日本科学未来館館長・宇宙飛行士 毛利 衛氏

詳しくは、釧路湿原自然再生大会実行委員会事務局(☎ 0154-24-1237)へお問い合わせいただくか、環境省自然環境局東北道地区自然保護事務所のホームページを御覧下さい。

環境省自然再生事業についてのインターネット上の主な情報源

- 釧路湿原自然再生プロジェクトホームページアドレス <http://www.env.gr.jp/kushiro>
- 環境省生物多様性センター <http://www.biodic.go.jp/kanren.html>
- 環境省自然環境局東北道地区自然保護事務所 <http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/higashihokkaido/index.html>



環境省

ニュースレターに関する問い合わせ:

環境省 自然環境局 東北道地区自然保護事務所

〒085-8639 北海道釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎4階

電話: 0154-32-7500 FAX: 0154-32-7575 E-mail: E-HOKKAIDO@env.go.jp

このニュースレターは再生紙を使用しています

自然再生

—— 釧路湿原から考える ——

釧路湿原自然再生事業
ニュースレター

vol.2

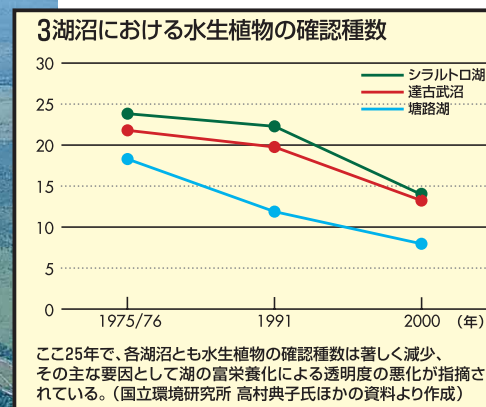
発行日:2003年6月18日

編集・発行:環境省 自然環境局 東北道地区自然保護事務所

<http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/higashihokkaido/index.html>



シラルトロ湖: 東から西方向を望む



平成15年度事業紹介

昨年度に引き続き環境省では、釧路湿原周縁部において自然再生事業を実施します。今年度は広里地域や、達古武地域その他、環境悪化が指摘されている達古武沼、塘路湖、シラルトロ湖の釧路湿原東部3湖沼で総合的な調査に着手します。

広里地域

農地跡地の表土は、ぎとり試験区では、表土のはぎ取りの深さを変えた3ヶ所の調査区

で植生回復状況を調査します。ハンノキを一部試験的に伐採した箇所では、各種観測機器を設置、データを収集し、ハンノキ伐採による湿原植生・地下水位等の環境変化、ハンノキ林の成立、拡大の要因等について検討します。

これらの調査は、昨年と同様に広里地域で繁殖するタンチョウに影響を与えないよう、高所作業車でタンチョウの動向を確認し、現地に立ち入る調査員に無線で指示を与えながら進めています。

達古武地域

達古武地域では、今年度も地元NPO法人トラストサルン釧路と環境省との連携・

協働のもと幅広い市民参加と地域との連携による自然再生事業を展開します。今年度は落葉広葉樹を主体とした本来の森林再生をめざすため、地域の生態系、水環境等の基礎データを収集して作成したベースマップに基づき、自然再生実施区とその目標となる標準区を選定し、各地の特性に応じた自然再生手法を検討します。また、これに関連して地元産の種子を用いた育苗についても検討します。

東部3湖沼

達古武沼、塘路湖、シラルトロ湖の釧路湿原東部3湖沼では、釧路川の逆流による土

砂の流入、富栄養化、外来種のウチダザリガニの繁殖による生態系破壊などが指摘されています。特に、特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」と同種の糸状マリモが、達古武沼、シラルト

ロ湖では絶滅のおそれがあるほど激減しているとの調査結果が平成12年に報告されています。

そこで、3湖沼を対象に今年の7月から国立環境研究所など国内の研究者が参加して、湖底の堆積物や水質の分析、流入河川や湖沼周囲の環境調査、外来種の生態調査を行います。

2年後をめどに調査結果と環境改善策をまとめ、自然再生事業に反映させる予定です。

